

幾何学 II 演習問題解答 No.11 2019年12月25日

問題 50 No.10 の解答を参照のこと .

問題 51 ゼロ切断 $M \subset E$ の (E の部分多様体としての) コンパクト Poincaré 双対は Thom 類 $\Theta \in H_c^r(E)$ で与えられた . 一方, s は M と横断的であり, 授業で説明したように $Z(s) = s^{-1}(M)$ の Poincaré 双対は $s^*\Theta \in H_c^r(M) \cong H^r(M)$ で与えられる . s と s_0 はホモトピックであるので, $s^*\Theta = s_0^*\Theta = e(E)$. 以上より示された .

問題 52 (1) Mayer-Vietoris 完全列を使って示すこともできるが, ここでは直接示そう . 写像 $j_*: H_c^p(M \setminus \{x\}) \rightarrow H^p(M)$ が全単射であることを示す . 以下では, x のある開近傍を D^n と同一視する . (x が $0 \in D^n$ に対応する .) また $0 < \epsilon \leq 1$ に対して $D^n(\epsilon) = \{y \in \mathbb{R}^n : |y| < \epsilon\}$ とおき, 同様に x の開近傍と同一視する .

(j_* の単射性) $[\omega] \in H_c^p(M \setminus \{x\})$ に対して $[j_*\omega] = 0$ と仮定する . このとき M 上の $p-1$ 形式 α が存在して $j_*\omega = d\alpha$. ω はコンパクト台なので, $d\alpha$ は x のある近傍 $D^n(\epsilon)$ で消えている . $p > 1$ のときは Poincaré の補題より, $\alpha|_{D^n(\epsilon)} = d\eta$ を満たす $D^n(\epsilon)$ 上の $p-2$ 形式 η が存在する . ここで $\rho \in C_c^\infty(D^n(\epsilon))$ を $\rho|_{D^n(\epsilon/2)} = 1$ を満たすものとするとき, $\rho\eta$ は M 上の滑らかな $p-2$ 形式に拡張される . このとき $j_*\omega = d\alpha = d(\alpha - d(\rho\eta))$ であるが, $\alpha - d(\rho\eta)$ は台が $M \setminus D^n(\epsilon/2)$ に含まれ, $M \setminus \{x\}$ 上のコンパクト台の微分形式を定める . 従って $[\omega] = 0 \in H_c^p(M \setminus \{x\})$ である . $p = 1$ のときは, α は $D^n(\epsilon)$ 上で定数 c に等しく, $\omega = d\alpha = d(\alpha - c)$ で, $\alpha - c$ の台は $M \setminus D^n(\epsilon)$ に含まれるから, 同じく $[\omega] = 0 \in H_c^p(M \setminus \{x\})$.

(j_* の全射性) $[\omega] \in H^p(M)$ を任意のコホモロジー類とする . $\omega|_{D^n}$ は閉形式であり, $p > 0$ であるから, Poincaré の補題より $\omega|_{D^n} = d\beta$ を満たす D^n 上の $p-1$ 形式 β が存在する . $\rho \in C_c^\infty(D^n)$ を $\rho|_{D^n(1/2)} = 1$ を満たすものとする . $\rho\beta$ は M 上の $p-1$ 形式に拡張される . ここで $\omega - d(\rho\beta)$ の台は $M \setminus D^n(1/2)$ に含まれ, $M \setminus \{x\}$ のコンパクト台の p 形式を定める . このとき $j_*[\omega - d(\rho\beta)] = [\omega]$ である .

(2) $\pi: \mathbb{C}\mathbb{P}^n \setminus \{x_n\} \rightarrow \mathbb{C}\mathbb{P}^{n-1}$ を $\pi[z_0, \dots, z_n] = [z_0, \dots, z_{n-1}]$ で定める . π のファイバーが \mathbb{C} と同一視されることは容易に分かる . 局所自明化を次のように与える . 開集合 $U_j \subset \mathbb{C}\mathbb{P}^{n-1}$ を $U_j = \{[z_0, \dots, z_{n-1}] : z_j \neq 0\}$ と定め,

$$\phi_j: \pi^{-1}(U_j) \rightarrow U_j \times \mathbb{C}$$

を

$$\phi_j([z_0, \dots, z_n]) = ([z_0, \dots, z_{n-1}], z_n/z_j)$$

と定める . ϕ_j が微分同相であることは, 座標を使って書けば明らかである .

(3) Thom 同型と (1) の結果から $p > 0$ に対して

$$H^p(\mathbb{C}\mathbb{P}^n) \cong H_c^p(\mathbb{C}\mathbb{P}^n \setminus \{x_n\}) \cong H^{p-2}(\mathbb{C}\mathbb{P}^{n-1})$$

である . また $\mathbb{C}\mathbb{P}^n$ は連結であるから $H^0(\mathbb{C}\mathbb{P}^n) = \mathbb{R}$. このことから n についての帰納法で容易に主張が示せる .

(4) $H^2(\mathbb{C}P^n) \cong H_c^2(\mathbb{C}P^n \setminus \{x_n\})$ の生成元は Thom 同型より $\mathbb{C}P^n \setminus \{x_n\} \rightarrow \mathbb{C}P^{n-1}$ の Thom 類 $\xi_n \in H_c^2(\mathbb{C}P^n \setminus \{x_n\})$ によって与えられる. $\mathbb{C}P^n \setminus \{x_n\}$ は $\mathbb{C}P^{n-1}$ の管状近傍であり, 授業で示した定理から, $\xi = j_*\xi_n \in H^2(\mathbb{C}P^n)$ は $\mathbb{C}P^{n-1}$ の Poincaré 双対である. これで前半の主張が示された.

直線束 $\mathbb{C}P^n \setminus \{x_n\} \rightarrow \mathbb{C}P^{n-1}$ の切断 s を $s([z_0, \dots, z_{n-1}]) = [z_0, \dots, z_{n-1}, z_{n-1}]$ で定める. s がゼロ切断と横断的であることは容易に確かめられる. s のゼロ点集合 $Z(s)$ は $\mathbb{C}P^{n-2}$ であり, その ($\mathbb{C}P^{n-1}$ の部分多様体としての) Poincaré 双対は問題 51 より $\xi' = \xi|_{\mathbb{C}P^{n-1}}$ で与えられる. ξ は $\mathbb{C}P^{n-1}$ の Poincaré 双対だから,

$$\int_{\mathbb{C}P^n} \xi^n = \int_{\mathbb{C}P^n} \xi^{n-1} \wedge \xi = \int_{\mathbb{C}P^{n-1}} (\xi')^{n-1}$$

ξ' は $\mathbb{C}P^{n-2}$ の $\mathbb{C}P^{n-1}$ の部分多様体としての Poincaré 双対であったから, n に関する帰納法により

$$\int_{\mathbb{C}P^n} \xi^n \neq 0$$

が示せる. 従ってコホモロジー類として $\xi^n \neq 0$. 次数の理由から $\xi^{n+1} = 0$ であるから, 環の単射準同型 $\mathbb{R}[\xi]/(\xi^{n+1}) \rightarrow H^*(\mathbb{C}P^n)$ が存在する. (3) の次元の計算からこの写像は同型である.

注: 与えられた埋め込み $\mathbb{C}P^{n-1} \hookrightarrow \mathbb{C}P^n$ は次の部分多様体 $S_i \cong \mathbb{C}P^{n-1}$ の埋め込み ($0 \leq i \leq n$) と全てホモトピックである.

$$S_i = \{[z_0, \dots, z_n] \in \mathbb{C}P^n : z_i = 0\} \hookrightarrow \mathbb{C}P^n$$

No.10 の問題 49 より S_i のポアンカレ双対は全て ξ に等しい. $k = 1, \dots, n$ に対して, ξ^k は (横断的な交わり) $S_1 \cap \dots \cap S_k \cong \mathbb{C}P^{n-k}$ の Poincaré 双対であり, 特に $k = n$ の場合には 1 点の Poincaré 双対となる. このことから $\xi^n \neq 0$ が言える.

問題 53 i 面を与える写像 $\partial_i: \Delta^{q-1} \rightarrow \Delta^q$ を (単体複体のときに倣って)

$$\partial_i = \langle e_0, \dots, e_{i-1}, e_{i+1}, \dots, e_q \rangle$$

と表示することにする. これは Δ^{q-1} の頂点の行き先を並べて書いたものである. (単体複体のときは順序を偶置換だけ変えたものを同一視したが, ここではそうはしない.) このとき $\sigma \in S_q(X)$ に対して

$$\begin{aligned} \partial(\partial\sigma) &= \partial \left(\sum_{i=0}^q (-1)^i \sigma \circ \partial_i \right) \\ &= \partial \left(\sum_{i=0}^q (-1)^i \sigma \circ \langle e_0, \dots, \check{e}_i, \dots, e_q \rangle \right) \\ &= \sum_{i=0}^q (-1)^i \left(\sum_{j < i} (-1)^j \sigma \circ \langle e_0, \dots, \check{e}_j, \dots, \check{e}_i, \dots, e_q \rangle \right. \\ &\quad \left. + \sum_{j > i} (-1)^{j-1} \sigma \circ \langle e_0, \dots, \check{e}_i, \dots, \check{e}_j, \dots, e_q \rangle \right) \\ &= 0 \end{aligned}$$

問題 54 前問に倣って $\theta_i: \Delta^{q+1} \rightarrow \Delta^q \times I$ を

$$\theta_i = \langle e_0, \dots, e_i, \tilde{e}_i, \dots, \tilde{e}_q \rangle$$

と書くことにする．ただし e_i は $(e_i, 0)$ を表し， \tilde{e}_i は $(e_i, 1)$ を表している．ここで

$$\begin{aligned} \partial K(\sigma) &= \partial \left(\sum_{i=0}^q (-1)^i H \circ (\sigma \times \text{id}) \circ \langle e_0, \dots, e_i, \tilde{e}_i, \dots, \tilde{e}_q \rangle \right) \\ &= \sum_{i=0}^q (-1)^i \left(\sum_{j<i} (-1)^j H \circ (\sigma \times \text{id}) \circ \langle e_0, \dots, \check{e}_j, \dots, e_i, \tilde{e}_i, \dots, \tilde{e}_q \rangle \right. \\ &\quad + (-1)^i H \circ (\sigma \times \text{id}) \circ \langle e_0, \dots, e_{i-1}, \tilde{e}_i, \dots, \tilde{e}_q \rangle \\ &\quad + (-1)^{i+1} H \circ (\sigma \times \text{id}) \circ \langle e_0, \dots, e_i, \tilde{e}_{i+1}, \dots, \tilde{e}_q \rangle \\ &\quad \left. + \sum_{j>i} (-1)^{j+1} H \circ (\sigma \times \text{id}) \circ \langle e_0, \dots, e_i, \tilde{e}_i, \dots, \check{e}_j, \dots, \tilde{e}_q \rangle \right) \\ &= H \circ (\sigma \times \text{id}) \circ \langle \tilde{e}_0, \dots, \tilde{e}_q \rangle - H \circ (\sigma \times \text{id}) \circ \langle e_0, \dots, e_q \rangle \\ &\quad + \sum_{j=0}^q (-1)^j \left(\sum_{i<j} (-1)^{i+1} H \circ (\sigma \times \text{id}) \circ \langle e_0, \dots, e_i, \tilde{e}_i, \dots, \check{e}_j, \dots, \tilde{e}_q \rangle \right. \\ &\quad \left. + \sum_{i>j} (-1)^i H \circ (\sigma \times \text{id}) \circ \langle e_0, \dots, \check{e}_j, \dots, e_i, \tilde{e}_i, \dots, \tilde{e}_q \rangle \right) \end{aligned}$$

一方，

$$\begin{aligned} K(\partial\sigma) &= K \left(\sum_{j=0}^q (-1)^j \sigma \circ \langle e_0, \dots, \check{e}_j, \dots, e_q \rangle \right) \\ &= \sum_{j=0}^q (-1)^j \left(\sum_{i<j} (-1)^i H \circ (\sigma \times \text{id}) \circ \langle e_0, \dots, e_i, \tilde{e}_i, \dots, \check{e}_j, \dots, \tilde{e}_q \rangle \right. \\ &\quad \left. + \sum_{i>j} (-1)^{i-1} H \circ (\sigma \times \text{id}) \circ \langle e_0, \dots, \check{e}_j, \dots, e_i, \tilde{e}_i, \dots, \tilde{e}_q \rangle \right) \end{aligned}$$

以上より

$$\begin{aligned} \partial K(\sigma) + K(\partial\sigma) &= H \circ (\sigma \times \text{id}) \circ \langle \tilde{e}_0, \dots, \tilde{e}_q \rangle - H \circ (\sigma \times \text{id}) \circ \langle e_0, \dots, e_q \rangle \\ &= f_*\sigma - g_*\sigma. \end{aligned}$$

以上より K がチェインホモトピーを与えることが示された．

f^* と g^* の間のチェインホモトピーは K の双対 $K^*: S^{q+1}(Y) \rightarrow S^q(X), \omega \mapsto \omega \circ K$ で与えられる．上の式の双対をとって

$$K^* \circ \delta + \delta \circ K^* = f^* - g^*$$

が成り立つ．(ここで δ は ∂ の双対であった．)